

田岡嶺雲参考文献目録

——昭和二十一年～平成十五年——

鈴木 一 正

要 旨 本目録は、高知出身で明治期に活躍した評論家・中国文学者・ジャーナリストの田岡嶺雲（一八七〇～一九二二）の参考文献目録の「戦後編」である。収録期間は、昭和二十一年から平成十五年までの五十八年分で、「単行本」「新聞・雑誌・単行本等所収論文」の二つに分け、発行順に並べたものである。

これまで田岡嶺雲の参考文献目録はいくつか作成されているが（付記参照）、網羅的なものはほとんどなかった。本目録では、先行の参考文献目録に未収載の文献を大幅に加えるとともに、なるべく現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略した巻号や副題を加え、単行本収録の情報も付加した。

凡 例

一、本目録は、高知出身で明治期に活躍した評論家・中国文学者・ジャーナリストの田岡嶺雲（一八七〇～一九一一）の参考文献目録の“戦後編”である。

一、本目録の構成は、「1 単行本」「2 新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。なお、「1」の内容細目については、「2」に掲げた。

一、収録期間は、副題が示すとおり、昭和二十一年から平成十五年までの五十八年分とした。

一、排列は、月単位で発行順に並べた。同月内は、著者名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、掲載順とした。ただし、週刊紙（誌）、日刊紙の場合に限り、同月内の後に月日順に並べた。

一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題は、なるべく採用しようとしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は、記載のとおりとした。

一、雑誌等の巻号は、なるべく採用しよう努めた。

一、単行本は「1」、雑誌等は「2」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項は（へ）を用いた。また無署名の場合は、——で表示した。その他、必要に応じて注記した。

一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。

一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。なお、所収書名は、↓「1」で示した。

1 単行本

家永三郎 『数奇なる思想家の生涯―田岡嶺雲の人と思想―』（岩波新書）（岩波書店、昭30・1・20）↓

『家永三郎集』第5巻、岩波書店、平10・2

蒲生欣一郎 『もうひとりの泉鏡花 視座を変えた文学論』（東美産業企画、昭40・12・28）

西田 勝 『北村透谷の発展者としての田岡嶺雲』（方法の会、昭51・1）昭54・5に改訂版

岡林清水・高橋 正・木戸昭平・別役佳代 『田岡嶺雲―思想と文学―』（土佐出版社、昭62・8・28）

田岡典夫 『嶺雲と私』（岡林清水ほか著『田岡嶺雲―思想と文学―』別冊、土佐出版社、昭62・8・28）

野水まゆみほか 『田岡嶺雲とその時代―日清戦争前後―』（日本近代文学原典研究報告集 一九九二年度）

（法政大学大学院西田ゼミナール、平5・3・31）

高橋 正 『田岡嶺雲』（高知市立自由民権記念館友の会ブックレットNo.3）（高知市立自由民権記念館

友の会、平6・7・1）

タグマール・パープロフナ・ブガーエワ 『近代日本の先駆的啓蒙家たち―福沢諭吉・植木枝盛・徳富蘇峰・北村透谷・田岡嶺雲―』（平和文化、平8・10・25）亀井博訳

岡林清水・高橋 正・別役佳代 『田岡嶺雲―思想と文学―』（土佐倶楽部社、平12・10・15）昭62・8

土佐出版社刊の新装版。木戸昭平「嶺雲をめぐる人々」を除く

高知県立文学館編 『土佐の反骨・田岡嶺雲』（企画展図録）（高知県立文学館、平12・10・25）

高知県立文学館編 『流風余韻』（高知県立文学館講演記録）第3集（高知県立文学館、平14・3・31）

（二〇〇〇年特別展「土佐の反骨田岡嶺雲」関連国際シンポジウム「田岡嶺雲と現代」）

2 新聞・雑誌・単行本等所収論文

昭48・5

⁴⁶笹川臨風 学友、僚友、其他（『明治還魂紙』^{すがへし} 亜細亜社、昭21・6）

⁴⁹長谷川泉 日本近代文学史素描（『国語と国文学』第26巻第4号、昭24・4）

⁵¹山田竹系 田岡嶺雲（『近代四国人物夜話』四国郷土史研究会、昭26・4）

⁵²家永三郎 田岡嶺雲―忘れられた思想家の一人―（『人物素描』（『日本歴史』第45号、昭27・2）

西田 勝 日本反戦文学の先驱者たち（『新日本文学』第7巻第5号、昭27・5）↓『日本革命文学の展望』誠信書房、昭33・2。『近代文学の発掘』法政大学出版社、昭48・8

西田 勝 田岡嶺雲論 ナショナリズムへの対決について（『新日本文学』第7巻第11号、昭27・11）

西田 勝 愛国者田岡嶺雲の生涯（『歴史評論』第40号、昭27・11）↓『近代文学の潜勢力』八木書店、

⁵³福田清人 日本文学紀行 山陽地方（『日本読書新聞』

昭28・7・6）

安成二郎 田岡嶺雲の俳句（『南風』第3号、昭28・

8）

小田切秀雄 君死にたまふことなかれ 日本反戦文学の伝統（『日本読書新聞』昭28・9・7）

西田 勝 雑誌『火鞭』の成立について―人民的美の組織的追求の先駆―（『文学』第21巻第10号、昭28・10）↓『日本革命文学の展望』誠信書房、昭33・2

西田 勝 解説（田岡嶺雲著『明治叛臣伝』（青木文庫146）青木書店、昭28・10）↓『日本革命文学の展望』誠信書房、昭33・2。『近代文学の発掘』法政大学出版社、昭48・8

家永三郎 田岡嶺雲著『明治叛臣伝』（書評）（『日本読書新聞』昭28・11・9）

家永三郎 反近代主義の歴史的考察（『日本近代思想

史研究」東京大学出版会、昭28・12)

51草部典一 田岡嶺雲(西尾実・久松潜一編『日本文学

辞典』学生社、昭29・3)

山本健吉 「四国」の巻(『現代文学風土記』河出書

房、昭29・4)

—— 新しい胎動——社会小説・社会主義的文学——

／浪漫主義の分裂——樗牛と嶺雲——(日本現代文学史

研究会編『日本の現代文学史』三三書房、昭29・4)

友野代三 青年文(久松潜一・吉田精一編『近代日本

文学辞典』東京堂出版、昭29・5)

西田 勝 田岡嶺雲(同右)

*小田切秀雄 明治文学の人民的動向(近代日本の断面

3、4) (『日本読書新聞』昭29・5・3、10)

堺 利彦 日本社会主義運動史話(『日本社会主義運

動史』(『日本近代史叢書7』河出書房、昭29・7)

林 茂・隅谷三喜男 解題(幸徳秋水著『基督抹殺論』

『岩波文庫』岩波書店、昭29・9)「最後の別れを懐

ふ」を収録

谷龍太郎 田岡嶺雲の筆禍事件(社史編纂委員会編

『山陽新聞七十五年史』山陽新聞社、昭29・11)

55家永三郎 「数奇なる思想家の生涯——田岡嶺雲の人と

思想」(『岩波新書』(岩波書店、昭30・1) ↓ 『家

永三郎集』第5巻、岩波書店、平10・2

忘れられた思想家／自由民権論の感化／評壇の八面

鋒／筆禍の連続／愛情の悲劇／大陸放浪／友情の世

界／社会文学の提唱／文明の危機の洞察／結婚制度

に対する批判／矛盾せる思想家／高貴なる失敗者

西田 勝 田岡嶺雲と悲慘小説——人民的コースによる

国民文学創出の問題——(『明治大正文学研究』第15

号、昭30・2) (特集『社会主義文学研究』)

小田切秀雄 田岡嶺雲(近代日本のアルバム 黎明期

に立った人 第1期の15) (『図書新聞』昭30・2・

12)

小田切秀雄 解説(蔵原惟人ほか編『日本プロレタリ

ア文学大系』序巻(『日本プロレタリア文学の母胎と

生誕』(三三書房、昭30・3)

平野 謙 解説(同右)

高坂正顕 社会主義・平和主義・帝国主義(開国百年

記念文化事業会編『明治文化史』4〈思想言論編〉、

洋々社、昭30・3)「鑑三の非戦論と尚江の社会主

義の行衛附嶺雲」を含む。↓『明治思想史』(京都

哲学撰書 第1巻)燈影舎、平9・11

井上正蔵 有三・ハイネ・嶺雲(『図書』第67号、昭

30・4)↓『ハイネ序説』未来社、昭42・3

井上正蔵 日本におけるハイネ理解(『図書新聞』昭

30・4・16)↓『ハイネ序説』未来社、昭42・3

家永三郎 田岡嶺雲の『黒白』(紹介)(『文学』第23

巻第6号、昭30・6)↓『黒白』復刻版、解説、名

著刊行会、平8・4

小田切秀雄 田岡嶺雲と近代文学史(『日本近代文学

近代日本の社会機構と文学』青木書店、昭30・6)

遠山茂樹 家永三郎著『数奇なる思想家の生涯』(書

評)『国民の科学』第6号、昭30・8)

吉田精一 文芸評論の進展／観念小説と深刻小説

『自然主義の研究』上巻、東京堂、昭30・11)

唐沢隆三 「俳諧数奇伝」について―嶺雲と俳句―

(『柳』第1巻第12号、昭30・12)

56飯田 鼎 家永三郎著『数奇なる思想家の生涯』

(書評)『三田学会雑誌』第49巻第1号、昭31・1)

西田 勝 田岡嶺雲略年譜／著書目録／解説(西田勝

編『田岡嶺雲選集』(青木文庫278)青木書店、昭

31・2)

村山芳郎 田岡嶺雲のこと(『学燈』第53巻第2号、

昭31・2)

小田切秀雄 解説(小田切秀雄編『発禁作品集』北辰

堂、昭31・6)『現代の病根』を収録

伊藤 整 秋声と田岡嶺雲の交はり(『日本文壇史』

4〈硯友社と一葉の時代〉、講談社、昭31・7)日

次のタイトルによる。昭53・7に新装版。平7・6

に文芸文庫版

西田 勝 『青年文』(日本の文芸雑誌)(『文学』第

24巻第8号、昭31・8)

西田 勝 明治の社会主義文学（遠山茂樹ほか編『近代日本思想史』第2巻、青木書店、昭31・9）↓

『日本革命文学の展望』誠信書房、昭33・2。『近代文学の発掘』法政大学出版局、昭48・8

西田 勝 『天鼓』（日本の文芸雑誌）（『文学』第24巻第9号、昭31・9）

松本喜代子 火鞭（日本歴史大辞典編集委員会編『日本歴史大辞典』第4巻、河出書房、昭31・11）

⁵⁷小杉放庵 嶺雲処士（『故郷 日光のことゝも』龍星閣、昭32・3）

家永三郎 安藤昌益と田岡嶺雲（『歴史手帖』（『日本歴史』第107号、昭32・5）

田岡嶺雲（岡山文学アルバム編集委員会編『岡山文学アルバム』日本文教出版、昭32・5）昭43・11に新版

藤本 実 田岡嶺雲と岡山（『岡山春秋』第53号（第7巻第5号）、昭32・6）

田岡嶺雲（『郷土史を飾る人々』（14）岡山

放送局、昭32・12）第140回放送台本。謄写版

⁵⁸藤井松一・大原 慧 火鞭（渡部義通・塩田庄兵衛編『日本社会主義文献解説―明治維新から太平洋戦争まで―』大月書店、昭33・2）

小田切秀雄 解説―近代の文芸評論―（『現代文芸評論集（二）』（現代日本文学全集94）筑摩書房、昭33・3）

「下流の細民と文士」「二葉女史の『にぎり江』『ヒューマニチー』『詩人と人道』『明治叛臣伝（総叙）』を収録

年譜（同右）

青野季吉・白井吉見・唐木順三・小田切秀雄（座談会『近代日本文学における評論の位置（同右月報）』吉田精一 研究書目・参考文献―現代文芸評論集（二）―（同右月報）

（同右月報）

伊藤 整 放蕩児田岡嶺雲／田岡嶺雲の都落ち（『日本文壇史』5（『詩人と革命家たち』、講談社、昭33・4）目次のタイトルによる。昭53・8に新装版。

平7・8に文芸文庫版

入交好脩 田岡嶺雲の思想と作品―その思想の背景を

なす明治日本の解明のために―〔経済往来〕第10

巻第4号、昭33・4)

田岡嶺雲／青年文(片岡良一編『岩波小辞

典 日本文学―近代〕岩波書店、昭33・6)

家永三郎 田岡嶺雲(日本歴史大辞典編集委員会編

『日本歴史大辞典』第12巻、河出書房新社、昭33・

9) 昭44・2に増補改訂版(第6巻)

後藤 靖 田岡嶺雲(京都大学文学部国史研究室編

『日本近代史辞典』東洋経済新報社、昭33・11)

⁵⁹有本芳水 田岡嶺雲(おかやま文学遺跡 第21回)

(「おかやま」昭34・1)

竹内 実 三代の中国見聞 嶺雲、漱石から元軍人ま

で(『日本読書新聞』昭34・3・30) ↓『日本人に

とつての中国像』春秋社、昭41・10

谷村寿子・宇都宮怜子・遠藤恵美子 田岡嶺雲(昭和

女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第13

巻、昭和女子大学光葉会、昭34・7)〔著作年表〕

「資料年表」を含む

奥ノ山伸 医者 of 診た社会主義者たち(『中央公論』

第74年第16号、昭34・11)「田岡嶺雲」を含む

⁶⁰丸山真男 忠誠と反逆(小田切秀雄編『近代日本思想

史講座』第6巻(自我と環境)、筑摩書房、昭35・2)

安成二郎 田岡嶺雲の手紙(『南風』第20号、昭35・4)

伊藤 整 田岡嶺雲の入獄と教科書事件(『日本文壇

史』6(明治思潮の転換期)、講談社、昭35・8)

目次のタイトルによる。昭53・8に新装版。平7・

10に文芸文庫版

西田 勝 田岡嶺雲(『国文学』第5巻第13号、昭

35・11)〔特集 近代評論の系譜(第二)〕

⁶¹吉田精一 田岡嶺雲(泉井久之助ほか著『日本文学辞

典』数研出版、昭36・1)

長谷川泉 評論・思想・随筆(木俣修ほか編『人と作

品 現代文学講座』第3集(明治編Ⅲ)、明治書院、

昭36・7)「再評価された田岡嶺雲」を含む

猪野謙二 田岡嶺雲(同右)

小田切秀雄 田岡嶺雲と高山樗牛（『文学史』〈日本現

代史大系〉東洋経済新報社、昭36・11）↓『小田切

秀雄全集』8、勉誠出版、平12・11

⁶²家永三郎 田岡嶺雲（『近代日本の思想家』〈文化新書〉

有信堂、昭37・3）昭45・6に新版（有信堂叢書）

天野敬太郎 田岡嶺雲（『現代作家書誌案内10』〈日本

古書通信』第27巻第4号、昭37・4）

竹村義一 田岡嶺雲（竹村義一・木戸昭平・岡林清水

著『土佐近代文学者列伝』〈高新シリーズ5〉高知

新聞社、昭37・8）

小田切秀雄 田岡嶺雲 明治社会との対立（『日本の思

想家 この百年22』〈朝日ジャーナル』第4巻第32

号、昭37・8・12）↓朝日ジャーナル編集部編『日

本の思想家2』朝日新聞社、昭38・5。昭50・9に

新版（朝日選書版）。『日本近代文学の思想と状況』

法政大学出版局、昭40・2

平岡敏夫 田岡嶺雲（伊藤整ほか編『鑑賞と研究 現

代日本文学講座』評論・随筆1〈明治期〉、三省堂、

昭37・10）「詩人と人道」（『嶺雲揺曳』）を収録

⁶⁴—— 田岡嶺雲、筆禍で下獄（山陽新聞社史編集

委員会編『山陽新聞八十五年史』山陽新聞社、昭

39・4）

鹿野政直 異端者意識の尖鋭化（『明治の思想』〈グ

ーインベルト・シリーズ45〉筑摩書房、昭39・7）

*西田 勝 田岡嶺雲の逸文（『図書新聞』昭39・9・

5、12、19）↓『近代文学の潜勢力』八木書店、昭

48・5

⁶⁵江川文展 田岡嶺雲の水戸時代前後（『郷土文化』第

6号、昭40・3）茨城県郷土文化研究会発行

小田切秀雄 『嶺雲揺曳』第一・二解説（『嶺雲揺曳』

〈明治文献資料叢書 社会主義篇5〉明治文献、昭

40・5）『嶺雲揺曳』『第二嶺雲揺曳』の復刻版（合本）

木戸昭平 田岡嶺雲（NHK高知放送局編『土佐路の

はなし』NHK高知放送局、昭40・5）

森 銑三 田岡嶺雲（森銑三編『明治人物逸話辞典』

下巻、東京堂出版、昭40・6）

小田切進 解題（小田切進編『明治社会主義文学集

（一）』（明治文学全集83）（筑摩書房、昭40・7）

「嶺雲揺曳」「第二嶺雲揺曳（抄）」「現代の病根」

「作家ならざる二小説家」「戦袍余塵」を収録

小田切進編 年譜（同右）

*西田 勝 田岡嶺雲未発表遺稿（「文学的立場」〔第1

次〕創刊号、第9号、終刊号（第12号）、昭40・7、

41・11、42・11）「刺客論」など計29篇を収録

久保田芳太郎 火鞭（「解釈と鑑賞」第30巻第13号、

昭40・10臨時増刊号〈近代文学雑誌事典〉）↓長谷

川泉編『近代文学雑誌事典』至文堂、昭41・1

柳生四郎 青年文（同右）／佐藤 勝 天鼓（同右）

宮川寅雄 田岡嶺雲「嶺雲揺曳」（名著―その人と時

代―28）（「エコノミスト」第43巻第44号、昭40・

10・12）↓エコノミスト編集部編『日本近代の名著』

毎日新聞社、昭41・7

猪野謙二 田岡嶺雲（久松潜一ほか編『現代日本文学

大事典』明治書院、昭40・11）

蒲生欣一郎 『もうひとりの泉鏡花 視座を変えた文

学論』（東美産業企画、昭40・12）

田岡嶺雲の墓へ行く鏡花／少年時代の嶺雲・土佐そ

して鏡花との相似／過不足なき嶺雲評価の必要／ジ

ャーナリストとしての嶺雲の評論活動／嶺雲の鏡花

評価と従来の視点／嶺雲と鏡花の「接点」をながめ

る／嶺雲・鏡花に「屈折」という図式主義／嶺雲と

鏡花の関連に焦点をしぼる／嶺雲の没日と鏡花の没

日も同じ（ほか）

⁶⁶山田宗睦 解説（山田宗睦編『戦争体験』〈近代日本

の名著9〉徳間書店、昭41・4）「戦袍余塵」を収録

西田 勝 田岡嶺雲の大学自由論（「世界」第246号、

昭41・5）未発表遺稿「学理に対する政権の迫害―

教育上に於ける偽忠君の弊―」の解説。↓『近代文

学の潜勢力』八木書店、昭48・5

*吉田精一 田岡嶺雲（評論の系譜29、30）（「解釈と鑑

賞」第31巻第7、8号、昭41・5、6）↓『近代文

芸評論史 明治篇』至文堂、昭56・4

東清次郎 草創期の論客 田岡嶺雲のこと（「いはらき」昭41・7・2）

猪野謙二 明治の精神とその終焉―田岡嶺雲と森鷗外

とを中心に―（『明治の作家』岩波書店、昭41・11）

田岡嶺雲（高柳光寿・竹内理三編『角川日

本史辞典』角川書店、昭41・12）昭51・5に蔵書版

⁶⁷伊藤 整 幸徳秋水の逮捕（『日本文壇史 第168回』

『群像』第22巻第4号、昭42・4）↓『日本文壇史

16』講談社、昭47・7。昭54・1に新装版。平9・

6に文芸文庫版

神崎 清 解題（神崎清編『明治記録文学集』（明治

文学全集96）筑摩書房、昭42・9）「数奇伝」を収録

熊谷元宏 『明治叛臣伝』の復刻にあたって／明治叛

臣伝 関係年譜／田岡嶺雲 略歴（田岡嶺雲著、熊谷

元宏編『明治叛臣伝―自由民権の先駆者たち―』大

勢新聞社、昭42・9）

和田茂樹 「四国文学」と田岡嶺雲（『愛文』第6号、

昭42・12）

⁶⁸前田 愛 「青年文」（伊藤整ほか編『新潮日本文学

小辞典』新潮社、昭43・1）↓磯田光一ほか編『増

補改訂 新潮日本文学辞典』新潮社、昭63・1

西田 勝 田岡嶺雲（同右）↓磯田光一ほか編『増補

改訂 新潮日本文学辞典』新潮社、昭63・1

瀬尾幹夫 田岡嶺雲の思想（『文芸研究』第58集、昭

43・2）

山田真津夫 明治反権力思想家の思想構造―田岡嶺雲

小論―（『研究ノート』（『東京経大会誌』第57号、

昭43・3）

谷川健一 青春の自画像―変化したものの総和（谷川

健一編『わが青春のとき―自伝と回想』（青春の記

録8）解説、三一書房、昭43・4）「数奇伝（抄）」

を収録。昭48・6に新装版

田岡嶺雲（伊藤整編『文士の筆跡』第1巻

〈作家篇I〉、二玄社、昭43・5）

不羈の思想家 田岡嶺雲 近代文明への犀

利な批判（『日本読書新聞』昭43・11・25）

稲垣達郎 作品解説（伊藤整ほか編『明治思想家集』

〈日本現代文学全集13〉講談社、昭43・12）昭55・

5に増補改訂版。「嶺雲揺曳（抄）」「第二嶺雲揺曳

（抄）」を収録

長谷川泉 明治思想家入門（同右）／川合道雄 田

岡嶺雲年譜（同右）／川合道雄 田岡嶺雲参考文献

（同右）

⁶⁹橋詰延寿 田岡嶺雲誕生地（旭地区）（「高知市史跡め

ぐり」高知市観光協会、昭44・1）

重松泰雄 近代批評の萌芽（全国大学国語国文学会監

修『講座日本文学』9（近代編Ⅰ）、三省堂、昭

44・4）「嶺雲と樗牛」を含む

西田 勝 冷遇された資料 田岡嶺雲全集と取組んで

思ったこと（「日本古書通信」第34巻第5号、昭

44・5）↓『近代文学の潜勢力』八木書店、昭48・

5

神崎 清 刑法第七十三条（『革命伝説』3（この闇

黒裁判）、芳賀書店、昭44・7）昭52・3にあゆみ

出版（『大逆事件 幸徳秋水と明治天皇』3）版

小田切秀雄 監修者の言葉（『田岡嶺雲全集』内容見

本、法政大学出版局、昭44・11）

中野重治 嶺雲全集を迎える（『推薦の言葉』↓「中

野重治全集』第16巻、筑摩書房、昭52・7／遠山茂

樹 たぐい稀な反骨の気魄（以下、推薦の言葉）／

柳田 泉 嶺雲の徒となれ／色川大吉 西田編集に

期待する／吉田精一 嶺雲も瞑する／猪野謙二 土

着の革命思想

西田 勝 編注／解題（西田勝編『田岡嶺雲全集』第

5巻（記録・伝記）、法政大学出版局、昭44・11）

宮川寅雄 私の嶺雲（同右附録、以下同じ）／杉浦

明平 「教奇伝」のユニークさ／家永三郎 田岡嶺

雲の裁判批判／竹内 実 田岡嶺雲と中国

東清次郎 田岡嶺雲と水戸／晩年の田岡嶺雲（『嬌絃

記 東白蘋遺稿集』週刊てんおん編集部、昭44・12）

⁷⁰奥平康弘 田岡嶺雲と新聞（『図書新聞』昭45・1・

1）

鹿野政直 西田勝編『田岡嶺雲全集』第5巻〈書評〉

〔日本読書新聞〕昭45・1・19

家永三郎 『田岡嶺雲全集』発刊の意義〔文学〕第

38巻第2号、昭45・2

大岩徳二 津山をめぐって〔岡山文学風土記〕〈岡山

文庫33〉日本文教出版、昭45・9）〔田岡嶺雲の来

任〕を含む

⁷¹西田 勝 田岡嶺雲の書簡〔日本近代文学館〕第1

号、昭46・5）↓『近代文学閑談』三一書房、平

4・12

西田 勝 個人全集と校訂権〔図書新聞〕昭46・6・

26）↓『近代文学の潜勢力』八木書店、昭48・5

神崎 清 刑法第七十三条の罪〔実録 幸徳秋水〕読

売新聞社、昭46・11

田岡嶺雲（高知県人名事典編集委員会編

『高知県人名事典』高知市民図書館、昭46・12）

⁷²佐藤 勝 田岡嶺雲年譜／著作目録〔幸徳秋水・堺

枯川・田岡嶺雲・大杉栄・荒畑寒村・河上肇集〕

〈現代日本文学大系22〉筑摩書房、昭47・2）〔明治
坂臣伝〕「悪魔的文明」を収録

小田切秀雄 田岡嶺雲の新しさ（同右月報）／谷沢

永一 幸徳秋水・堺枯川・田岡嶺雲・大杉栄・荒畑

寒村・河上肇研究案内（同右月報）

陳 舜臣 田岡嶺雲と嘉納治五郎（近代日本と中国5）

〔朝日ジャーナル〕第14巻第6号、昭47・2・11）

↓『日本の 中国的』徳間書店、昭47・4。竹内

好・橋川文三編『近代日本と中国』上（朝日選書13）

朝日新聞社、昭49・6

田岡嶺雲の悲恋 「粹月」にまつわる思い

出（町を変える土手線の道路改修6）〔津山朝日新

聞〕昭47・2・12夕刊）〔新聞記事〕

森 銑三 文人田岡嶺雲の本領（歴史と人物）第2

年第3号、昭47・3）〔特集 明治硬派の文人たち〕

↓『明治人物閑話』中央公論社、昭57・9。〔森銑

三著作集 続編〕第5巻、中央公論社、平5・6

稲垣達郎 総説（稲垣達郎・佐藤勝編『近代文学評論

大系』第2巻〈明治期Ⅱ〉、角川書店、昭47・6)

「下流の細民と文士」「写実主義の根本的謬想」「写実主義の根本的謬想とは何ぞやとは何ぞや」「現代思想の暗潮」「作家ならざる二小説家」を収録

佐藤 勝 解題(同右)

西田 勝 田岡嶺雲の天皇制観(「歴史と人物」第2年7号、昭47・7) ↓ 『近代文学の潜勢力』八木書店、昭48・5

山田貞光 田岡嶺雲(「解釈と鑑賞」第37巻第10号、昭47・8)〈特集 日清・日露戦後の文学〉

川副国基 解説／注釈／筆者略伝(『近代評論集Ⅰ』〈日本近代文学大系57〉角川書店、昭47・9)「小説と社会の隠微」を収録

森長英三郎 解説(幸徳秋水全集編集委員会編『幸徳秋水全集』別巻1、明治文献、昭47・10)「数奇伝(抄)」を収録

松本健一 田岡嶺雲と森知幾—内村鑑三の二人の弟子と近代日本(『孤島コミュニケーション論』現代評論社、

昭47・11)

73 西田 勝 編注／解題(西田勝編『田岡嶺雲全集』第

1巻〈評論及び感想1〉、法政大学出版局、昭48・2)

小田切秀雄 嶺雲評伝史上の「暗黒期」のなかで

(「同右附録、以下同じ」) ↓ 『社会文学・社会主義文

学研究』勁草書房、平2・1／井上正蔵 嶺雲のハ

イネ像／広末 保 田岡嶺雲における芭蕉と近松 ↓

『近世文学にとつての俗』〈広末保著作集第11巻〉影

書房、平13・3／中村嘉弘 嶺雲と蘇軾の評伝

岡林清水 田岡嶺雲文学の浪漫性(『自由民権運動文

学の研究』高知市民図書館、昭48・3) 昭62・1に

土佐史談会から増補改訂版

西田 勝 嶺雲・愛山論争の意味(「法政大学文学部

紀要」No.18、昭48・3)

大久保利謙 解説(『近代社会文学集』〈日本近代文学

大系50〉角川書店、昭48・4)「嶺雲揺曳(抄)」を

収録

山田博光 注釈／略伝／参考文献(同右)

杉浦明平 西田勝編『田岡嶺雲全集』第1巻〈書評〉

〔日本読書新聞〕昭48・4・16)

佐藤 勝 田岡嶺雲(相賀徹夫編『万有百科事典』1

〈文学〉、小学館、昭48・8)

瀬沼茂樹 田岡嶺雲の死(日本文壇史 第228回)〔群

像〕第28巻第11号、昭48・11) ↓『日本文壇史21』

講談社、昭53・2

74室伏 勇 田岡嶺雲と水戸(室伏勇著、茨城新聞社編

『文学のふるさと』〈茨城のこころ〉昭和書院、昭

49・1)

江川文展 散逸した当時の論評(同右)

森 銃三 田岡嶺雲の逸文(史壇散策)〔歴史と人物〕

第4年第1号、昭49・1) ↓『明治人物閑話』中央

公論社、昭57・9。『森銃三著作集 続編』第5巻、

中央公論社、平5・6

菅井鳳展 田岡嶺雲とその時代―明治知識人の軌跡―

(上)〔研究ノート〕(愛泉女子短期大学紀要)第9

号、昭49・3)

西田 勝 田岡嶺雲の反語(『歴史と人物』第4年第

3号、昭49・3) ↓『近代文学閑談』三一書房、平

4・12

田岡嶺雲(フランク・B・ギブニー編『ブ

リタニカ国際人百科事典 小項目事典』4、ディビ

ーエス・ブリタニカ、昭49・3)

西田 勝 恩人田岡嶺雲(『鏡花全集』巻10、月報、

岩波書店、昭49・8)

南国的浪漫性 田岡嶺雲(高知新聞社編

『土佐の百人』高知新聞社、昭49・9)〔高知新聞創

刊70周年記念PR特集(縮刷版)〕

75鈴木和子 ハイネ(福田光治ほか編『欧米作家と日本

近代文学』第4巻〈ドイツ篇〉、教育出版センター、

昭50・7)「ハイネと嶺雲・啄木・鷗外・樗牛」を

含む

井上正蔵 日本におけるハイネの研究―舟木重信と田

岡嶺雲―(『文化評論』第170号、昭50・8)

堀江信男 自由民権運動と文学(茨城県教育委員会・

茨城文化団体連合編『茨城の文学史』茨城県教育委員会・茨城文化団体連合、昭50・10)

山田博光 田岡嶺雲『戦袍余塵』(村松定孝ほか編『近代日本文学における中国像』(有斐閣選書)有斐閣、昭50・10)

西田 勝 田岡嶺雲の連亜論―『数奇伝』にみる東洋恢復論―(『現代の眼』第16巻第11号、昭50・11)

西田 勝 『北村透谷の発展者としての田岡嶺雲』(方法の会、昭51・1) 昭54・5に改訂版

76 田岡嶺雲(三省堂編輯所編『コンサイス人名辞典 日本編』三省堂、昭51・3) ↓『コンサイス日本人名事典』改訂版、三省堂、平2・4

*西田 勝 田岡嶺雲の公害論(近代文学閑談)(『図書新聞』昭51・5・1、8) ↓『近代文学閑談』三一書房、平4・12

岡林清水 田岡嶺雲(高知新聞社編『高知県百科事典』高知新聞社、昭51・6)

堀江信男 茨城の近代文学史(『茨城の近代文学―地

方文学史の試み―』(笠間選書66)笠間書院、昭51・12)

77西田 勝 田岡嶺雲の文学的予言力(『虹鱗』第2号、昭52・8) ↓『近代文学閑談』三一書房、平4・12

坂上博一 明治三十年代の文学(『近代日本文学の歴史』桜楓社、昭52・9)「高山樗牛と田岡嶺雲の活躍」を含む

勝間淳視 ハイネと嶺雲(井上正蔵編『ハイネとその時代』朝日出版社、昭52・10) ↓『ハイネとその文学―勝間淳視遺稿集―』同学社、昭53・2

堀江信男 解説(堀江信男編『茨城近代文学選集』I『明治の文学』、常陽新聞社、昭52・10)「明治叛臣伝(抄)」を収録

西田 勝 田岡嶺雲(日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第2巻、講談社、昭52・11)

西田 勝 「火鞭」／「青年文」／「天鼓」(日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第5巻、講談社、昭52・11)

松本三之介 解説（松本三之介編『明治思想集Ⅱ』

〈近代日本思想大系31〉筑摩書房、昭52・11）「嶺雲
揺曳（抄）」「第二嶺雲揺曳（抄）」を収録。「参考文献
献」「年表」「著者略歴」を付す

三浦 叶 田岡嶺雲とその漢学論（「就実論叢」第7

号、昭52・12）↓『明治の漢学』汲古書院、平10・5

⁷⁸安藤裕治 浪漫的文学者・田岡嶺雲（高知青年会議所
指導力開発委員会編『先人のさけび 明日の指導者
のために』高知青年会議所、昭53・9）

勝間淳視 ハイネと嶺雲（「再録」／明治の日本と鷗
外・嶺雲のハイネ受容（勝間淳視遺稿集刊行会編
『ハイネとその文学——勝間淳視遺稿集——』同学社、
昭53・2）

井上正蔵 淳視揺曳——ハイネと嶺雲をめぐる——
（同右）／可知正孝 勝間淳視のハイネ研究につい
て——アッタ・トロル、ベルネ、嶺雲、タンホイザー
——（同右）

可知正孝 勝間淳視遺稿集『ハイネとその文学』につ

いて——遺稿、ヘッセ、嶺雲、追悼論文——（「Latene

（ラテルネ）」第40号、昭53・9）↓『テューリンゲ
ンの森』鳥影社、平14・12

小田切秀雄 田岡嶺雲（『明治・大正の作家たちⅠ』

〈レグルス文庫106〉第三文明社、昭53・12）↓『小

田切秀雄全集』12、勉誠出版、平12・11

⁷⁹西田 勝 宮嶋資夫の中の田岡嶺雲（『大正労働文学
研究』第2号、昭54・5）

⁸⁰ブガーエワ、松山信洋訳 田岡嶺雲——忘れられた思想
家（資料紹介）（『日本文学論叢』第9号、昭55・10）

江藤恭二 田岡嶺雲のハイネ論（ワイマール精神の撰
取者たち ドイツ文化と日本人3）（『中日新聞』昭
55・10・1夕刊）

⁸¹平尾道雄 自由と民権（『青年の風雪』〈高新ふるさと
文庫2〉高知新聞社、昭56・1）

田岡典夫 博浪抄（『ととまじり 文壇片隅四十年』
平凡社、昭56・2）

田岡嶺雲（三好行雄・浅井清編『近代日本

文学小辞典』有斐閣、昭56・2)

家永三郎 田岡嶺雲(下中邦彦編『世界大百科事典』

19、平凡社、昭56・4)

立花雄一 底辺ルポルタージュと日清戦後文学(『明

治下層記録文学』創樹社、昭56・4)「田岡嶺雲と

底辺ルポルタージュ」を含む。平14・5に増補改訂

版(ちくま学芸文庫)

伊東 勉 田岡嶺雲のハイネ論(『文学的立場』〔第3

次〕第4号、昭56・7)

⁸²菊地昌典 非凡人と凡人の「自伝」(佐伯彰一・鹿野

政直監修『田岡嶺雲・長谷川如是閑』(日本人の自

伝4)解説、平凡社、昭57・5)「教奇伝」を収録

—— 田岡嶺雲略年譜(同右)

尾崎秀樹 解説(田中貢太郎著『貢太郎見聞録』(中

公文庫)中央公論社、昭57・6)

野田宇太郎 津山と鶴山(『野田宇太郎 文学散歩』第

21巻上(山陽文学散歩)、文一総合出版、昭57・7)

「中学校教師田岡嶺雲の恋」を含む

浦田義和 田岡嶺雲(谷山茂編『日本文学史辞典』京

都書房、昭57・9)

*田岡典夫 嶺雲と私(『高知新聞』昭57・9・12)23

朝刊)12回連載。

口頭試問の席で/篤学の人/文筆こそ生命/イゴッ

ソウ精神/教奇の生涯/実母と養母/蔵書の整理/

デリカシー/高台の二階屋/叛逆の精神/博浪沙

的/ある記憶。↓『嶺雲と私』(『田岡嶺雲—思想と

文学—』別冊)土佐出版社、昭62・8

平岡敏夫 田岡嶺雲(平凡社教育産業センター編『日

本文学事典』平凡社、昭57・9)

三浦 叶 高青郎・魏勺庭と明治の文人(『就実語文』

第3号、昭57・11)↓『明治漢文学史』汲古書院、

平10・6

⁸³山本遺太郎 田岡嶺雲(『岡山の文学アルバム』(岡山

文庫)日本文教出版、昭58・2)

—— 田岡嶺雲(平凡社『日本史事典』編集部編

『日本史事典』平凡社、昭58・3)

吉原広明 『嶺雲揺曳』（安在邦夫ほか著『明治・大

正・昭和の名著総解説』自由国民社、昭58・6）

渡辺一考 『鏡花論集成解題』（谷沢永一・渡辺一考編

『鏡花論集成』立風書房、昭58・9）「化鳥」「鏡花の近業」を収録

西田 勝 田岡嶺雲の女性解放論と堺利彦の家庭観の

変遷―『家庭雑誌』を再読あるいは初読して（『本

郷だより』第2号、昭58・10）↓『近代文学閑談』

三一書房、平4・12

豊田 穰 幸徳秋水逮捕の状況（『西園寺公望と明治

大帝崩御』（明治・大正の宰相 第5巻）講談社、昭

58・12）第4章「幸徳秋水と大逆事件」のうち

⁸⁴酒井英行 正宗白鳥「漱石と柳村」、田岡嶺雲「作家

ならざる二小説家」、「本誌前号の評」（『ホトトギス』

明38・5）（『解釈と鑑賞』第49巻第12号、昭59・10）

〈特集Ⅱ新・夏目漱石研究図書館〉

*須川照一 王国維と田岡嶺雲（『東方』第45〜47号、

昭59・12〜60・2）

別役佳代 森近運平が関わった高知県人―田岡嶺雲―

〈人物誌〉（『史談いばら』第13号、昭59・12）

⁸⁵荻野富士夫 解題（堺利彦ほか著『復刻版 売文集』

不二出版、昭60・3）「人間の生活を咒ふ」を収録

—— 学問と文化（岡山県史編纂委員会編『岡山

県史』第10巻〈近代1〉、岡山県、昭60・3）第7

章「明治後期の教育と文化」のうち

西田 勝 解説（『復刻版 天鼓』第2巻、不二出版、

昭60・9）

*—— 田岡嶺雲書簡〈所蔵資料紹介〉（『日本近代

文学館』第87、88号、昭60・9、11）

斎藤道一 「大逆事件」が始まった（『大逆のとき―

ハレー彗星燃えて―』筑摩書房、昭60・11）第4章

「妖星は天空を灼く」のうち

⁸⁶—— 田岡嶺雲（窪田善太郎ほか『土佐・人物も

のがたり』（『がいどころち5』高知新聞社、昭61・3）

島田秀男 同情と狂熱と―田岡嶺雲における文芸評論

（『隣人』第3号、昭61・5）〈特集 明治の諸相〉

小林一美 田岡嶺雲の従軍報道（『義和団戦争と明治

国家』汲古書院、昭61・9）

*高橋 正 資料解釈のむつかしさ―田岡嶺雲の場合

〈研究余滴〉（『南荒』第16、17号、昭61・10、62・3）

西田 勝 田岡嶺雲（長谷川泉編「現代文学研究資

料と情報」〈国文学解釈と鑑賞〉別冊）至文堂、昭

61・11）

竹村則行 王国維の境界説と田岡嶺雲の境界説（『中

国文学論集』第15号、昭61・12）

⁸⁷西田 勝 編注／解題（西田勝編『田岡嶺雲全集』第

2巻〈評論及び感想2〉、法政大学出版社、昭62・1）

西田 勝 田岡嶺雲の女性解放論（『高知新聞』昭62

・2・7朝刊）↓『近代文学閑談』三一書房、平

4・12

〔風〕 嶺雲の恋〈閑人調〉（『高知新聞』昭62・

2・8朝刊）〈風Ⅱ別役佳代〉

〔風〕 嶺雲の女子解放論〈閑人調〉（『高知新聞』

昭62・2・28朝刊）〈風Ⅱ別役佳代〉

小田切秀雄 田岡嶺雲（相賀徹夫編『日本大百科全書』

14、小学館、昭62・3）

黒古一夫 田岡嶺雲の今日性（『文学時標』第6号、

昭62・4）

岩垂 弘 田岡嶺雲 よみがえる明治の思想家「女子

解放は男子解放也」（『朝日新聞』昭62・4・17夕刊）

西田 勝 田岡嶺雲と幸徳秋水（『社会文学』創刊号、

昭62・6）〈特集 民権と文学〉

―― 創刊された「社会文学」 自由民権、文学

を特集 板垣、嶺雲、秋水らに論及（『高知新聞』

昭62・6・20朝刊）〈新聞記事〉

西田 勝 編注／語注／解説／嶺雲略年譜（田岡嶺雲

著、西田勝編『女子解放論』法政大学出版社、昭

62・7）

山本泰三 田岡嶺雲（『土佐の墓』その1〈土佐史談

選書12〉、土佐史談会、昭62・7）

*山田一郎 月見草の女（『人生紀行』）（『高知新聞』昭

62・7・13、20、27夕刊）

嶺雲の恋を語るべし／月光浴びて夢の中／満月の浜の語らい。↓『龍馬からの遺言状』新人物往来社、平3・11

田岡嶺雲にささげる ソ連の研究者から著書と手紙『碑を建てる会』（高知市）へ（「高知新聞」昭62・7・25夕刊）〈新聞記事〉

岡林清水ほか 『田岡嶺雲—思想と文学—』（土佐出版社、昭62・8）

岡林清水 嶺雲の土佐的風土—『数奇伝』をめぐる—／高橋正 埋もれた思想家嶺雲／木戸昭平 嶺雲をめぐる人々—『明治叛臣伝』の周辺から—／別役佳代 嶺雲の愛と放浪の軌跡／高橋正編 略年譜 田岡典夫 『嶺雲と私』（岡林清水ほか著『田岡嶺雲—思想と文学—』別冊、土佐出版社、昭62・8）

西田 勝 田岡嶺雲（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第8巻、吉川弘文館、昭62・10）

高橋 正 田岡嶺雲と自由民権運動—『数奇伝』をめぐる—（『土佐史談』第17号、昭62・11）〈自由民

権・三大事件建白運動一〇〇年記念号〉

西田 勝 岡林清水ほか著『田岡嶺雲—思想と文学—』（書評）（『図書新聞』昭62・11・7）

永畑道子 西田勝編『田岡嶺雲 女子解放論』（書評）（『図書新聞』昭62・11・14）

西田 勝 高知に嶺雲の記念碑（『図書新聞』昭62・11・21）

⁸⁸堀江信男 田岡嶺雲と水戸（『近代文学を担った人々—茨城・人と作品—』筑波書林、昭63・3）

岡 利郎 岡林清水・高橋正・木戸昭平・別役佳代・田岡典夫著『田岡嶺雲—思想と文学—』（書評）（『社会文学通信』第12号、昭63・4）

会文学通信」第12号、昭63・4）

嶋岡 晨 明治の〈青春〉—序にかえて／田岡嶺雲の獄中日記と幸徳秋水の日記—それぞれの〈謀叛〉（『明治・青春の夢 革新的行動者たちの日記』（朝

口選書358）朝日新聞社、昭63・7）

高川ナギサ 田岡嶺雲著、西田勝編『女子解放論』（書評）（『社会文学』第2号、昭63・7）

'89 西田 勝 伝統の「近代後」的再生—小川芋銭と田岡

嶺雲—〔朝日新聞〕昭63・11・22夕刊

*瀬尾幹夫 田岡嶺雲の研究（「拓殖大学論集—人文・

自然科学系—」第175、183、187号、昭63・12、平2・

1、12）

西田 勝 小川芋銭と田岡嶺雲（「地球の一点から」

第3号、平1・1・20）

岸 陽子 王国維と田岡嶺雲—『人間詞話』をめぐつ

て—（安藤彦太郎編『近代日本と中国—日中関係史

論集—」汲古書院、平1・3）↓『中国知識人の百

年』早稲田大学出版部、平16・3

高橋康雄 去就交錯／嶺雲躍々／壮士集散（『物語・

万朝報 黒岩涙香と明治のメディア人たち』日本経

済新聞社、平1・5）

田岡嶺雲劇 高知で上演（「地球の一点か

ら」第9・10号、平1・8・6）

田岡嶺雲（高知新聞社編『夢・人・自由—

土佐の自由民権マップ』高知新聞社、平1・10）

'90 伊東昭雄 解説—アジアと近代日本（伊東昭雄編著

『アジアと近代日本 反侵略の思想と運動』（思想の

海へ「解放と変革」11）社会評論社、平2・2）

「東亜の大同盟」を収録

黒古一夫 解説—思想の最前線で（黒古一夫編著『思

想の最前線で 文学は予兆する』（思想の海へ「解

放と変革」12）（社会評論社、平2・5）『日本文学

における新光彩』『詩人と厭世観』『下流の細民と文

士』『文学上における西欧崇拜の残夢』を収録

森 武司 嶺雲忌 俳号は爛腸（土佐四季俳句127）

（「高知新聞」平2・9・6朝刊）

野水まゆみ 田岡嶺雲の女子解放論（「地球の一点か

ら」第26号、平2・12・25）

『1高橋 正 親友田岡嶺雲日光に逝く（『評伝大町桂月』

高知市民図書館、平3・3）

田岡嶺雲（新潮社辞典編集部編『新潮日本

人名辞典』新潮社、平3・3）

尾崎秀樹 田中貢太郎の場合（「大衆文学研究」第94

号、平3・4）〈特集 代作の系譜〉

野水まゆみ 田岡嶺雲の『女子解放論』〔虹鱒〕終刊号（第8号）、平3・8）

岡林清水 近代の文学者群像（山本大編『図説 高知県の歴史』〈図説日本の歴史39〉河出書房新社、平3・11）

⁹²高島俊男 鳥の将死なんとする〈湖辺漫筆11〉〔月刊しにか〕第3巻第2号、平4・2）

佐藤秋蘋と田岡嶺雲（茨城新聞社史編さん委員会編『茨城新聞百年史』茨城新聞社、平4・2）
西田 勝 『嶺雲揺曳』『第二嶺雲揺曳』解説（田岡嶺雲著『嶺雲揺曳』〈近代文芸評論叢書30〉日本図書センター、平4・3）『嶺雲揺曳』『第二嶺雲揺曳』の復刻版（合本）

野水まゆみ 田岡嶺雲の一葉観〈田岡嶺雲とその時代1〉〔地球の一点から〕第45・46号、平4・8・10）
佐藤信二 嶺雲の露伴観〈田岡嶺雲とその時代2〉〔地球の一点から〕第47号、平4・9・30）

高橋 正 田岡嶺雲の文芸評論——一葉をはじめて天下に紹介——（『自由のともしび』〈自由民権記念館だより〉vol.10、平4・12）

村上 愛 尾崎紅葉の「想」〈田岡嶺雲とその時代3〉〔地球の一点から〕第49・50号、平4・12・24）

⁹³*西尾雅裕 川上眉山——時代に要求され、時代に取り残された作家——〈田岡嶺雲とその時代4、5〉〔地球の一点から〕第51、52・53号、平5・2・15、4・20）

高橋 正 田岡嶺雲の初期文芸評論——批判的リアリズムを提唱——（『日本文学研究』第30号、平5・3）

野水まゆみほか 『田岡嶺雲とその時代——日清戦争前後——』（日本近代文学原典研究報告集 一九九二年度）法政大学大学院西田ゼミナール、平5・3）

野水まゆみ 田岡嶺雲の樋口一葉観／梅沢亜由美
尾崎紅葉『二人比丘尼色懺悔』『不言不語』について／村上 愛 嶺雲の尾崎紅葉観／佐藤信二 嶺雲の露伴観／吉田 真 田岡嶺雲の広津柳浪観／河野真理子 広津柳浪の二年間／西尾雅裕 川上眉山——

時代に要求され、時代に取り残された作家『大盃』

『うらおもて』ほかから―唐 瓊瑜 「大盃」「う

らおもて」について／野水まゆみ 田岡嶺雲の江見

水蔭観／吉田 真 田岡嶺雲の斎藤緑雨観／梅沢亜

由美 田岡嶺雲の泉鏡花観／唐 瓊瑜 泉鏡花の

「琵琶伝」と「化銀杏」について／佐藤信二 嶺雲

の小杉天外観／村上 愛 田岡嶺雲の小杉天外観―

『改良若殿』を中心として―河野真理子 社会小

説論について

猪野 睦 おわりに―ひき継ぐもの―(岡林清水・土

佐文雄著『自由民権運動の文学者たち』(高知市立

自由民権記念館友の会ブックレットNo.2) 高知市立

自由民権記念館友の会、平5・6)

趙 夢雲 田岡嶺雲と上海(「地球の一点から」第

55・56号、平5・7・30)

河野真理子 広津柳浪―悲惨・深刻小説のなかで才能

を開花(田岡嶺雲とその時代6)(同右)

阿部恒久 田岡嶺雲(青木和夫ほか編『日本史大事典』

第4巻、平凡社、平5・8)

高橋 正 田岡嶺雲と津山 「長法寺の暁の鐘に夏の

夜の明け易きを怨み…」(「地球の一点から」第57号、

平5・8・15)

吉田 真 斎藤緑雨の皮肉(田岡嶺雲とその時代7)

(「地球の一点から」第58号、平5・9・23)

野水まゆみ 江見水蔭の『女房殺し』(田岡嶺雲とその

時代8)(「地球の一点から」第59号、平5・10・30)

⁹⁴紅野敏郎 「青年評論」―北原白秋・正宗白鳥・田岡

嶺雲ら(逍遙・文学誌32)(「国文学」第39巻第3号、

平6・2)

キム・レイホ 田岡嶺雲と私 『田岡嶺雲とその時代

―日清戦争前後』を読む(「地球の一点から」第64

号、平6・3・31) 倉持千恵詔

高橋 正 高知の近代文学者たち―その光と影―

(「日本文学研究」第31号、平6・3)「評論文学の

系譜」を含む

綾目広治 作家紹介(磯貝英夫編『ふるさと文学館』

第39卷〈岡山〉、ぎょうせい、平6・6)「銷魂記」を収録

綾目広治・田口律男 作品解説(同右)／磯貝英夫 文学者群像(同右)

出原隆俊 数奇伝／嶺雲揺曳(三好行雄ほか編『日本現代文学大事典 作品篇』明治書院、平6・6)

出原隆俊 田岡嶺雲(三好行雄ほか編『日本現代文学大事典 人名・事項篇』明治書院、平6・6)

高橋 正 『田岡嶺雲』〈高知市立自由民権記念館友の会ブックレットNo.3〉(高知市立自由民権記念館友の会、平6・7) 嶺雲と自由民権運動／文芸評論家嶺雲／思想家嶺雲／略年譜

楠瀬 眞 田岡嶺雲(岡山県歴史人物事典編纂委員会編『岡山県歴史人物事典』山陽新聞社、平6・10)

中島国彦 田岡嶺雲(朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社、平6・11)

⁹⁵ととり礼治 作家紹介(祖田浩一編『ふるさと文学館』第9巻〈茨城〉、ぎょうせい、平7・3)「加波山事

件と河野広体氏」を収録

祖田浩一 作品解説(同右)

岡林清水 土佐と近代文学／田岡嶺雲(岡林清水編『近代土佐文学者総覧』〈『高知県昭和期小説名作集』別刷付録〉高知新聞社、平7・8)

⁹⁶—— 田岡嶺雲生誕地の碑〈旭街地区〉(土佐観光ガイドボランティア協会編『高知市北部・西部地区ガイドブック』高知市観光課、平8・3)

谷本澄子 嶺雲全集編纂のこと〈研究室日誌6〉(地球の一点から)第91号、平8・6・30)

*ロナルド・ロフタス 進歩の転覆 田岡嶺雲の「非文明論」(地球の一点から)第92・93、94・100号、平8・8・15、10・10・30、11・30、12・27、9・2・10、3・10、5・28)

西田勝退任・退職記念論文集編集委員会編『文学・社会へ地球へ』(三一書房、平8・9)

西田 勝 「社会文学」とは何か／高橋 正 田岡嶺雲と自由民権運動―土佐からの視角―／趙 夢雲

田岡嶺雲と上海／吉田 真 夏目漱石と田岡嶺雲／

ロナルド・P・ロフタス、河東あや訳 田岡嶺雲の

評論における文学的リアリズムと社会的良心／タク

マラー・P・ヴガエーワ、亀井博訳 田岡嶺雲の記

録文学作品のジャンルの特性の問題

タグマラー・パープロブナ・ブガーエワ 『近代日本

の先駆的啓蒙家たち―福沢諭吉・植木枝盛・徳富蘇

峰・北村透谷・田岡嶺雲―』（平和文化、平8・10）

亀井博訳。「忘れられた思想家―田岡嶺雲論―」を

収録

山本泰三 田岡嶺雲（『土佐自由民権家の墓碑並びに

業績』（高知市立自由民権記念館友の会ブックレッ

トNo.4）高知市立自由民権記念館友の会、平8・10）

永畑道子 女と男のかかわり（『愛ひびきあう 近代

日本を奔った女たち』筑摩書房、平8・11）「田岡

嶺雲の『女子解放論』を含む

菊池克美 『黒白』の復刻について（『田岡嶺雲主筆

稀観雑誌『黒白』二号・三号・六号（復刻）解説）

（『黒白』復刻版、名著刊行会、平8・4）

97西田 勝 田岡嶺雲（近代日本社会運動史人物大事典

編集委員会編『近代日本社会運動史人物大事典』3、

日外アソシエーツ、平9・1）

高橋 正 系譜別に見た高知の近代文学―その光と影

―評論文学／照射と影―土佐・文学の周辺―田岡嶺

雲（『高知の近代文学素描―悲傷と反骨の系譜―』

土佐文化資料調査研究会、平9・4）

岡林清水 田岡嶺雲の恋（『土佐倶楽部』第1号、平

9・5）（『土佐の文学エッセンス1』）

佐藤能丸 田岡嶺雲（鹿野政直ほか編『民間学事典

人名編』三省堂、平9・6）

黒田 晋・竹内平吉郎 大雄寺／長法寺（『津山の散

策にしひがし』（岡山文庫187）日本文教出版、平

9・7）

田岡嶺雲（朝尾直弘ほか編『角川新版 日

本史辞典』角川書店、平9・9）

田岡嶺雲（日本史広辞典編集委員会編『日

『本史広辞典』山川出版社、平9・9) ↓『日本史人物辞典』山川出版社、平12・5

坂井 健 没理想論争と田岡嶺雲―禪の流行と自然主義の成立―(『京都語文』第2号、平9・10)

岡林清水 土佐の風土と文学(高知県立文学館編『高知の文学』〈常設展示図録〉高知県立文学館、平9・11)

自由民権運動と文学(同右)「田岡嶺雲」を含む

‘98 鹿野政直 解題(『家永三郎集』第5巻〈思想家論1〉、岩波書店、平10・2)『数奇なる思想家の生涯―田岡嶺雲の人と思想―』を収録

高橋 正 数奇なる思想家田岡嶺雲(「土佐倶楽部」第7号、平10・5)〈特集 土佐人気質の研究〉

‘99 杉本邦子 青年文(『明治の文芸雑誌―その軌跡を辿る―』明治書院、平11・2)

田岡嶺雲(『高知県人名事典 新版』刊行委員会編『高知県人名事典 新版』高知新聞社、平

11・9)

湊 哲夫 是空と津山(和田克司編著『大谷是空「浪花雜記」―正岡子規との友情の結晶―』〈近代文学研究叢刊19〉和泉書院、平11・10)

田岡嶺雲(石上英一ほか編『岩波日本史辞典』岩波書店、平11・10)

生誕130年記念田岡嶺雲展へ 来秋十一月ごろ 国際シンポジウム(『高知ペンクラブ会報』第46号、平11・10)

‘00 紅野敏郎 「青年評論」 田岡嶺雲・北原白秋・正宗白鳥・徳田秋声・浮田和民・坪内逍遙・山路愛山・谷本富・大町桂月・三宅雪嶺ら(『文芸誌譚 その「雄」なる風景一九一〇―一九三五年』雄松堂出版、平12・1)

*別役佳代 田岡嶺雲(土佐の文人28)30(『朝日新聞』〔高知版〕平12・3・2、9、16朝刊)

文芸評論に社会的視点／芸妓との恋そして別れ／反骨貫き病魔との闘い

趙 夢雲 「或變動」を成し遂げた都市―田岡嶺雲の

上海東文学社（『上海・文学残像―日本人作家の光

と影』〈現代アジア叢書35〉田畑書店、平12・5）

西田 勝 解説（田岡嶺雲著『病中放浪』〈復刻版社

会文学叢書1〉西田勝・平和研究室、平12・6）

西田 勝 解説（田岡嶺雲・小川芋錢著『有声無声』

〈復刻版 社会文学叢書番外〉西田勝・平和研究室、

平12・6）

落合雄三 小杉未醒―放庵その多彩なる人間関係／近

代文学と日光（落合雄三ほか編著『栃木県近代文学

アルバム』栃木県文化協会、平12・7）

西田 勝 一〇〇年前の虐殺証言―田岡嶺雲の北清事

変従軍記―（軍縮問題資料）No.237、平12・7）

志田行男 幸徳の「左様なら」（田岡嶺雲）（『暗殺主

義』と大逆事件』（元就出版社、平12・9）第6部

「断頭台の露と消えて」のうち

*横田賢一 田岡嶺雲 中国民報主筆 生誕130年に寄せ

て（『山陽新聞』平12・9・30、10・1、3〜5、

8、12、17、25〜28、31、11・2、5、7〜12、14、

15、17、19、22、25、29、30、12・2朝刊）30回

連載。

数奇の人／教科書疑獄事件（その1〜7）／生い立

ち・津山の恋（その1〜10）／ジャーナリストの道

（その1〜8）／晩年（上中下）／現代的評価

高知県立文学館編 『土佐の反骨・田岡嶺雲』〈企画

展図録〉（高知県立文学館、平12・10）

西田 勝 詩を生きた男／高橋 正 田岡嶺雲と土

佐人氣質／田中励儀 田岡嶺雲と泉鏡花／（以下、

無署名）生い立ち・家族―自由の気風の中で／青

雲の志を抱いて―官立大阪中学校―／文芸評論家田

岡嶺雲／青春の愛と試練―津山の恋―／ジャーナリ

スト嶺雲／姑蘇の風月―日本語教師として従軍記者

としての大陸放浪―病中放浪―閑雅静寂の中で―／

反骨の思想家として／終焉の地、日光／嶺雲を継ぐ

もの／嶺雲回想・嶺雲評など（ほか）

広瀬朱美 田岡嶺雲（朝尾直弘ほか編『日本歴史大事

典』2、小学館、平12・10)

グローバルな発想の再評価進む 反骨の思

想家田岡嶺雲 生誕百三十周年の高知で企画展

(「朝日新聞」平12・11・4夕刊)〈新聞記事〉

別役佳代 「田岡嶺雲展」から(「高知新聞」平12・

11・26)28朝刊)

「嶺雲遺硯」／「故嶺雲雅兄遺愛の鉢割」／「波の

しぶき」原稿

⁰¹岡 利郎 国際シンポジウム「田岡嶺雲と現代」成功

裡に終わる〈ブロック報告 高知〉(「社会学通信」

第60号、平13・2)

西田 勝 田岡嶺雲(臼井勝美ほか編)『日本近現代人

名辞典』吉川弘文館、平13・7)

紀田順一郎 田岡嶺雲(『ペンネームの由来事典』東

京堂出版、平13・9)

森岡勝彦 田岡嶺雲覚書き(「Critical Writing」No.2、

平13・11)

田岡嶺雲(上田正昭ほか監修)『講談社日本

人名大辞典』講談社、平13・12)

⁰²竹村則行 『支那文学大綱』と田岡嶺雲(川合康三編

『中国の文学史観』創文社、平14・2)

高知県立文学館編 『流風余韻』(高知県立文学館講

演記録)第3集(高知県立文学館、平14・3)〈二

〇〇〇年特別展「土佐の反骨田岡嶺雲」関連 国際

シンポジウム「田岡嶺雲と現代」

西田 勝 田岡嶺雲の未来性／ロナルド・P・ロフ

タス アメリカ人の立場から／キム・レイホ 田岡

嶺雲の世界文学構想／岸 陽子 田岡嶺雲と王国

維／呂 元明 田岡嶺雲は中国に何をもたらしたか

田岡嶺雲(秦郁彦編)『日本近現代人物履歴

事典』東京大学出版会、平14・5)

谷沢永一 気迫を欠けば漢文は読めない―田岡嶺雲

『和訳漢文叢書』(『書物耽溺』講談社、平14・8)

田岡家の継承者として 田岡家の先祖と彼

をめぐる肉親たち(高知県立文学館編)『田岡典夫没

後20年』(企画展図録)高知県立文学館、平14・9)

「叔父田岡嶺雲」を含む

03 石井雍大 反骨の思想家・田岡嶺雲について語る（地域に学ぶ集い）（歴史地理教育）No.660、平15・10増刊号）

楳林晃二 『青年文』復刻を喜ぶ（推薦のことば）

（『青年文』復刻版、内容見本、不二出版、平15・10）

平出 隆 文学的転換への切迫した意識（同右）

西田 勝 解説（『復刻版 青年文』別冊『青年文』

解説・総目次・索引）、不二出版、平15・12）

付記

北村透谷、山路愛山に続く明治文学者の書誌シリーズ第三弾である。今回も透谷、愛山と同様に、戦後分を先に発表することにした。戦前分は、現物確認に手間がかかるので、次の機会に譲りたい。短期間で調査、作成したため、遺漏した文献も少なくないと思われるが、御寛恕いただきたい。

主な先行文献には次のものがある。

・遠藤恵美子 田岡嶺雲 資料年表（昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第13巻、昭和女子大学光葉会、昭34・7）（『田岡嶺雲』のうち）

・—— 主要参考文献（高知県立文学館編『土佐の反骨・田岡嶺雲』高知県立文学館、平12・10）

本目録の作成にあたっては、以上のほか『年刊人物文献目録』（日外アソシエーツ）、『国文学年鑑』（国文学研究資料館）などの二次資料を参考にした。また、作成にあたっては、高知の池田洋一氏の協力を得た。池田氏に感謝の意を表したい。